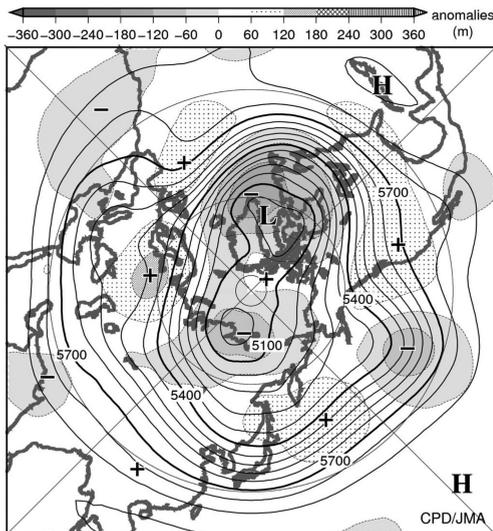


2015年3月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、極うずの中心はグリーンランド付近と中央シベリア付近に位置した。米国西部、ヨーロッパ北部、東シベリア南部から本州の東海上にかけて正偏差となった。亜熱帯ジェット気流は、平年の位置と比べて、インド北西部付近で南寄り、中国南部では北寄りを流れた。ユーラシア大陸北部では、寒帯前線ジェット気流が明瞭だった。シベリア高気圧は平年と比べて弱く、アリューシャン低気圧は平年の位置の西側で弱かった。

熱帯の対流活動は、日付変更線付近、アフリカ付近で活発、中部インド洋赤道域からインドネシア付近、東部太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬に太平洋西部、中旬に太平洋東部から大西洋、下旬にアフリカ付近を東進した。対流圏下層の赤道域では、月の前半は太平洋西部で西風偏差、太平洋東部で東風偏差となった。月の後半は太平洋では広く西風偏差となった。対流圏上層では、亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンが見られた。南方振動指数は -0.7 だった。



2015年3月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

世界の天候

2015年3月の世界の月平均気温偏差は $+0.31^{\circ}\text{C}$ （速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。3月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.83^{\circ}\text{C}/100$ 年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

- インド西部及びその周辺では異常多雨となった。
- 米国西部～メキシコ北西部では異常高温となった。
- メキシコ及びその周辺では異常多雨となった。

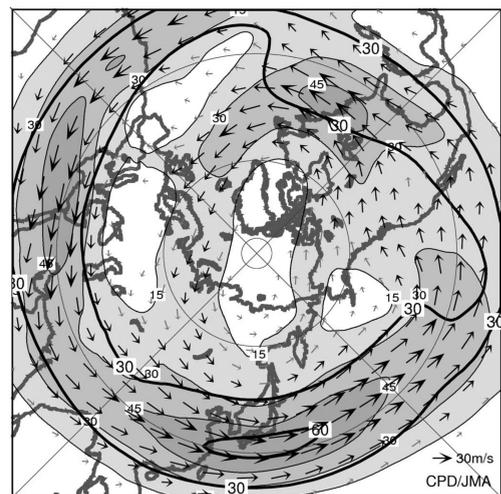
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

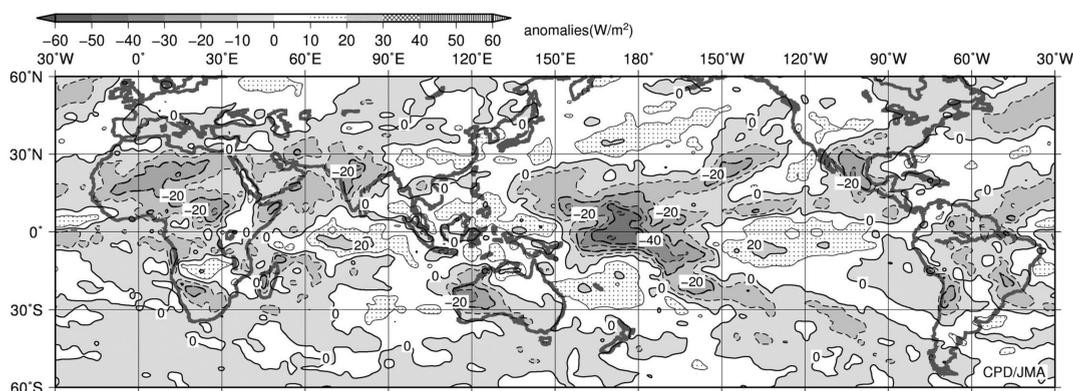
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

※ 2014年の異常気象・天候や気候系の特徴をまとめた「気候系監視年報2014」を公表しました。気象庁ホームページからご覧ください。

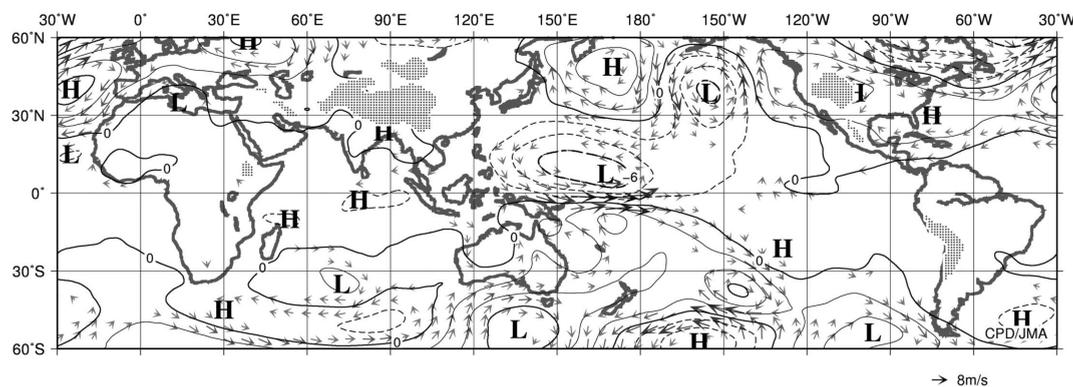
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/nenpo/index.html>



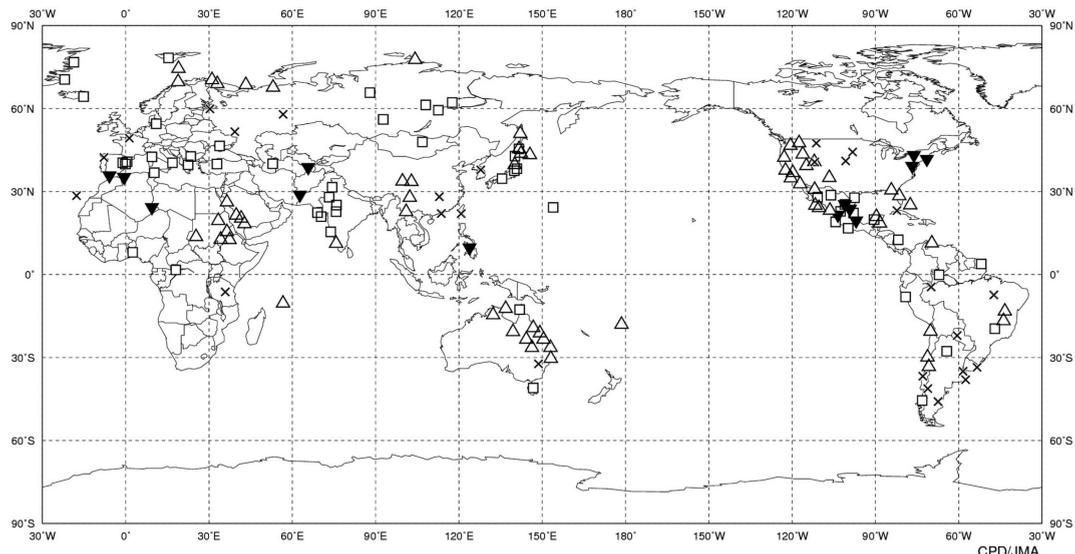
2015年3月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2015年3月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年3月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。